

## 参考資料

### 鳩山町地域エネルギービジョン策定委員会設置要綱

平成 25 年 8 月 8 日  
鳩山町告示第 73 号

(設置)

第 1 条 本町の地域エネルギー導入の指針となる鳩山町地域エネルギービジョン（以下「ビジョン」という。）を策定するため、鳩山町地域エネルギービジョン策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 策定委員会は、鳩山町地域エネルギービジョン専門委員会の提言を尊重し、次に掲げる事項を検討して町長へ報告する。

- (1) 鳩山町の地域特性と地域エネルギーに関すること。
- (2) 鳩山町における再生可能エネルギーの導入に関すること。
- (3) その他ビジョンの策定に関すること。

(組織)

第 3 条 策定委員会は、15 人以内の委員で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、町長が委嘱する。

- (1) 町の議会の議員
- (2) 識見を有する者
- (3) 町内の公共的団体等の役員等
- (4) エネルギー供給事業者
- (5) 教育関係者
- (6) 公募による者
- (7) 関係行政機関の職員等
- (8) その他町長が必要と認める者

(委員長及び副委員長)

第 4 条 策定委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により決定する。

3 委員長は、会務を総理し、策定委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(任期)

第 5 条 委員の任期は、平成 26 年 3 月 31 日までとし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第 6 条 策定委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

2 策定委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(分科会の設置)

第 7 条 策定委員会は、必要に応じて分科会を設置することができる。

2 分科会の名称、構成員及び運営その他必要な事項は、委員長が別に定める。

(庶務)

第 8 条 策定委員会の庶務は、政策財政課及び生活環境課において処理する。

(その他)

第 9 条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営に必要な事項は、委員長が策定委員会に諮って別に定める。

附 則

この告示は、公布の日から施行する。

## 鳩山町地域エネルギービジョン策定委員名簿

平成 25 年 10 月 1 日現在

氏名	所属・役職等	区分 (要綱第 3 条関係)	備考
石井 計次	鳩山町議会 議員	第 1 号委員 町の議会の議員	委員長
高田 和幸	学校法人 東京電機大学 理工学部 建築・都市環境学系 教授	第 2 号委員 識見を有する者	
吉川 博	埼玉中央農業協同組合 鳩山支店 主任	第 3 号委員 町内の公共的団体の役員 等	副委員長
福岡 次郎	鳩山町商工会 会長		
早坂 啓市	社会福祉法人 鳩山町社会福祉協議会 事務局長		
村岡 満子	鳩山町 PTA 連絡協議会 会長		
古江 教靖	東京電力株式会社 埼玉支店 川越支社 お客さまコミュニケーショングループ マネージャー	第 4 号委員 エネルギー供給事業者	
新井 伯賢	坂戸ガス株式会社 取締役企画開発部長		
荒井 基明	鳩山町教育委員会 教育長	第 5 号委員 教育関係者	
増山 千代子	公募委員	第 6 号委員 公募による者	
中尾 安希子	公募委員		
森 隆一郎	公募委員		
笹沢 和則	埼玉県 東松山環境管理事務所 副所長	第 7 号委員 関係行政機関の職員等	
-	-	第 8 号委員 その他町長が必要と認める 者	未選出

【任期】 平成 25 年 10 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

## 鳩山町地域エネルギービジョン策定委員会審議経過

区分	期日	内容
第1回会議	平成25年 10月4日	○委員長及び副委員長の選出について ○鳩山町地域エネルギービジョン策定委員会について ○鳩山町地域エネルギービジョン専門委員会の提言について
第2回会議	平成25年 11月8日	○地域エネルギービジョン策定に係る意見交換
第3回会議	平成25年 12月26日	○地域エネルギービジョン（骨子案）の検討
第4回会議	平成26年 2月26日	○地域エネルギービジョン（素案）の検討
第5回会議	平成26年 3月24日	○地域エネルギービジョン（案）の検討及び決定

## 関連用語解説

### ▼あ

#### ○エコタウン

廃棄物の発生抑制やリサイクルの推進を通じた資源循環型経済社会の構築。

#### ○エネルギー管理システム (EMS : Energy Management System)

センサーや IT 技術を駆使して、電気やガスなどのエネルギー使用状況、再生可能エネルギーや蓄電池等の機器の制御を行って、効率的なエネルギーを最適に管理・制御を行うためのシステム。HEMS (家庭のエネルギー管理システム)、BEMS (建築物のエネルギー管理システム)、FEMS (工場のエネルギー管理システム)、CEMS (地域のエネルギー管理システム) などと称される。

#### ○温室効果ガス (GHG・GreenHouse Gas)

大気中に存在する気体 (ガス) の中でも、太陽の熱を地球に留めて地表を暖める働きがあるガス。二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>)、メタン (CH<sub>4</sub>)、オゾン (O<sub>3</sub>)、一酸化二窒素 (N<sub>2</sub>O)、クロロフルオロカーボン (CFC) などの気体の総称。

### ▼か

#### ○カーボン・オフセット (Carbon Offset)

自らの温室効果ガスの排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行うとともに、削減が困難な部分の排出量について、他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等 (クレジット) を購入すること又は他の場所で排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動を実施すること等により、その排出量の全部又は一部を埋め合わせる。

#### ○コジェネレーション (cogeneration)

内燃機関や外燃機関等の排熱を利用して動力・温熱・冷熱を取り出し、総合エネルギー効率を高める新しいエネルギー供給システムの一つ。燃料が本来持っているエネルギーの約 75%~80%と高エネルギー効率を実現可能とする技術。

### ▼さ

#### ○再生可能エネルギー

自然の営みから半永久的に得られ、継続して利用できるエネルギー。有限でいずれ枯渇する化石燃料などと違い、自然の活動によってエネルギー源が絶えず再生、供給され、地球環境への負荷が少ないエネルギー源。(太陽光、風力、波力・潮力、流水・潮汐、地熱、バイオマス等)

#### ○市街化区域 (市街化調整区域)

都市計画区域のうち、都市計画法に基づき定められている区域で、「すでに市街地を形成している区域および概ね 10 年以内に優先的、計画的に市街化を図るべき区域」。また、市街化調整区域は、「市街化を抑制すべき区域」。

#### ○循環型社会

有限である資源を効率的に利用し、持続可能な形で循環させながら、結果として資源を再生産するというリサイクル社会。経済活動における資源やエネルギーの損失がないことを理想とした社会。

### ○創エネルギー（創エネ）

エネルギーを節約する省エネだけではなく、太陽光や風力など利用して積極的にエネルギーを作り出していくという考え方。

### ○省エネルギー（省エネ）

ある一定の効果を、より少ないエネルギーで同じ効果を得られるようにすること。  
単純にエネルギーの使用量を減らすだけではなく、本来必要のないエネルギーを省いたり、高効率な他のエネルギーに転換するなど。

### ○スマート・コミュニティ（Smart Community）

電気、ガス、水道、交通、医療、情報など、あらゆるインフラを情報通信技術によって、統合的な管理や最適な制御を実現した次世代のコミュニティ。

### ○スマート・ハウス（Smart House）

1980年代にアメリカで提唱された住宅の概念。家電や設備機器を情報化配線等で接続し、地域や家庭内のエネルギーを最適制御する住宅。

### ○潜在賦存量

利用の可否に関係なく、理論的に算出する自然エネルギーの潜在的なエネルギーの量。

### ▼た

### ○地産地消

地域で生産されたさまざまな生産物や資源（主に農産物や水産物）をその地域で消費すること。地域生産地域消費（ちいきせいさん・ちいきしょうひ）の略語。

### ○低炭素社会

地球温暖化の原因とされる温室効果ガス（二酸化炭素など）の排出量が小さい社会。  
温室効果ガスの排出量と吸収量が同じ（カーボンニュートラル）であること、又はそれに近い社会。

### ○独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

（NEDO：New Energy and Industrial Technology Development Organization）

1970年代の2度のオイルショックによりエネルギーの多様化が求められるなか、新たなエネルギー開発の先導役として1980年に誕生。のちに産業技術に関する研究開発業務が追加された日本最大の技術開発推進機関。

### ▼な

### ○燃料電池

水の電気分解と逆の原理で発電する電池。（水の電気分解は、水に外部から電気を通して水素と酸素に分解するが、燃料電池はその逆で、水素と酸素を電気化学反応させて電気を作る。）

### ▼は

### ○バイオマス (biomass)

特定の時点において、ある空間に存在する生物 (bio) の量を、物質の量 (mass) として表現したもの。生物由来の資源を指すこともある。

○発光ダイオード (LED : Light Emitting Diode)

電圧を加えた際に発光する半導体素子。

○ビークル・トゥ・ホーム (V2H : Vehicle to Home)

電気自動車 (EV) やプラグインハイブリッド車 (PHV、PHEV) の蓄電池のエネルギーを取り出して、家庭用電力として利用すること。

○ヒートポンプ

熱媒体や半導体等を用いて周辺環境中の空気、水や土などと熱交換を行う技術。

熱源は、空気熱、地中熱、太陽熱、水熱などで、熱交換を行う動力は、電気、ガス、石油などさまざまだが、特に自然を熱源としたヒートポンプは、二酸化炭素を大きく削減できる方法。一般家庭でもエアコンや冷凍冷蔵庫などに使われている技術。

▼ま

○メガソーラー (Mega Solar)

1メガワット (1,000kW) を超える大規模な太陽光発電施設。

○モビリティ・マネジメント (Mobility Management)

過度に自動車に頼る状態から、公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に利用する状態へと少しずつ変えていく一連の取組み。

▼ら

○利用可能量

潜在賦存量にある一定条件や制約を考慮したうえで利用が可能な自然エネルギーの量。